

児のそら寝（文法）

今は昔、比叡の山に見<sup>A</sup>ありけり。僧たち、<sup>A</sup>宵の<sup>I</sup>つれづれに、「いざ、かいもちひ<sup>I</sup>せむ。」と<sup>U</sup>言ひけるを、この児、<sup>II</sup>心よせに聞きけり。さりとして、し出ださむを待ちて<sup>E</sup>寝ざらむも、<sup>①</sup>わろかりなむと思ひて、片方に寄りて、寝たるよしにて、出で来るを待ちけるに、すでにし出だしたるさまにて、ひしめき合ひたり。

この児、<sup>III</sup>さだめておどろかさむずらむと、<sup>オ</sup>待ちあたるに、僧の、「もの申しさぶらはむ。おどろかせたまへ。」と言ふを、<sup>②</sup>うれしと思へども、ただ一度に<sup>カ</sup>いらへむも、待ちけるかともぞ思ふとて、いま一声呼ばれて<sup>IV</sup>いらへむと、<sup>キ</sup>念じて寝たるほどに、「や、な起こしたてまつりそ。をさなき人は、寝入り<sup>ク</sup>たまひにけり。」と言ふ声の<sup>③</sup>しければ、あな、<sup>V</sup>わびしと思ひて、いま一度起こせかしと、思ひ寝に聞けば、ひしひしと、ただ食ひに食ふ音のしければ、<sup>④</sup>ずちなくて、<sup>B</sup>無期ののちに、「えい。」といらへたりければ、僧たち笑ふこと限りなし。

問一 傍線部Ⅰ～Ⅴの意味として適切なものを次から選びなさい。

- ア 愛情    イ 所在なさ    ウ 答える    エ 我慢する  
オ きつと    カ つらい    キ 期待

問二 傍線部A・Bの読みを現代仮名遣いで答えなさい。

問三 傍線部ア～クの活用の行・種類を答えなさい。

問四 傍線部①～④のうち仲間はずれはどれか。数字で答えなさい。

問五 次の活用表を完成させなさい。

問一	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
問二	A	B	
問三	ア	イ	ウ
問四	ク	キ	カ
	オ	エ	

	基本語	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
①	あり						
②	す						
③	言ふ						
④	寝ぬ						
⑤	かゝる						

児のそら寝(文法) 解答

問一	I	イ	II	キ	III	オ
IV	ウ	V	カ			
問二	A	(	よい	)		
B	(	むご	)			
問三						
ア	(	ラ行変格活用	)			
イ	(	サ行変格活用	)			
ウ	(	ハ行四段活用	)			
エ	(	ナ行下二段活用	)			
オ	(	ワ行上一段活用	)			
カ	(	ハ行下二段活用	)			
キ	(	サ行変格活用	)			
ク	(	ハ行四段活用	)			
問四	(	③	)			

⑤	④	③	②	①	基本語
いらふ	寝ぬ	言ふ	す	あり	
へ	ね	は	せ	ら	未然形
へ	ね	ひ	し	り	連用形
ふ	ぬ	ふ	す	り	終止形
ふる	ぬる	ふ	する	る	連体形
ふれ	ぬれ	へ	すれ	れ	已然形
へよ	ねよ	へ	せよ	れ	命令形